NAGASE

2012年（平成24年）3月期
第2四半期決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

2011年11月21日

◆ 目　次 ◆

- 2012年３月期第2四半期の決算概況

- 2012年３月期業績見通し
  および中期経営計画「*“CHANGE” 11*」進捗

- バイオ事業の成長戦略について
  ～更生会社株式会社林原等のスポンサー契約締結を受けて～

2012年3月期 第2四半期の決算概況

連結決算の概況

震災の影響や円高進行等により減収減益も利益面では計画値を確保

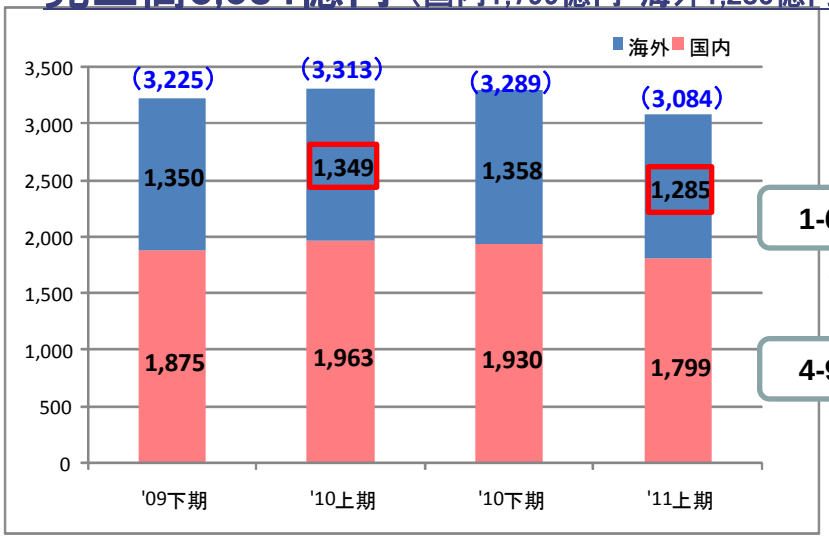
（単位：億円）

	10/09	11/09	増減	前年同期比	計画値（期初見通し）
売上高	3，313	3，084	▲228	93%	3，150
売上総利益（利益率）	370（11.2%）	357（11.6%）	▲12	97%	352（11.2%）
販売管理費	▲264	▲279	▲15	106%	▲275
営業利益	105	77	▲27	74%	77
経常利益	113	92	▲21	81%	85
純利益	68	54	▲14	79%	54
1株当たり純利益	53円29銭	42円04銭			

新規連結会社：福井山田化学工業㈱、Sofix Corporation(米国)、㈱キャプテックス、長瀬フィルター㈱

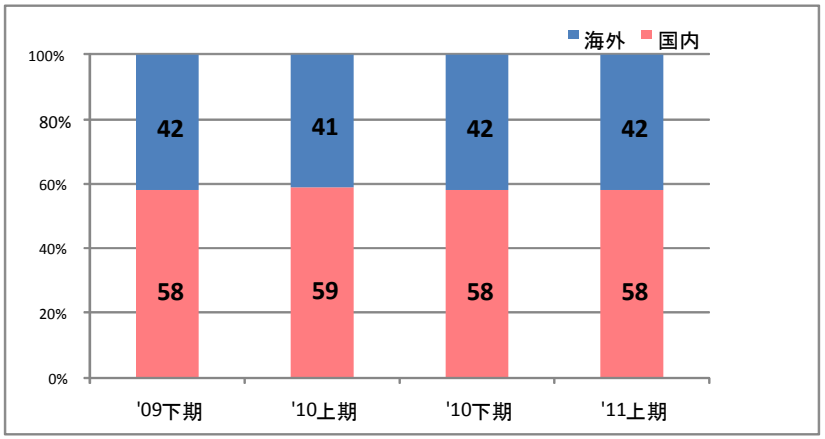
地 域（国 内・海 外）別 売 上 高

売上高3,084億円（国内1,799億円・海外1,285億円） 前年同期比228億円減（国内163億円減・海外64億円減）



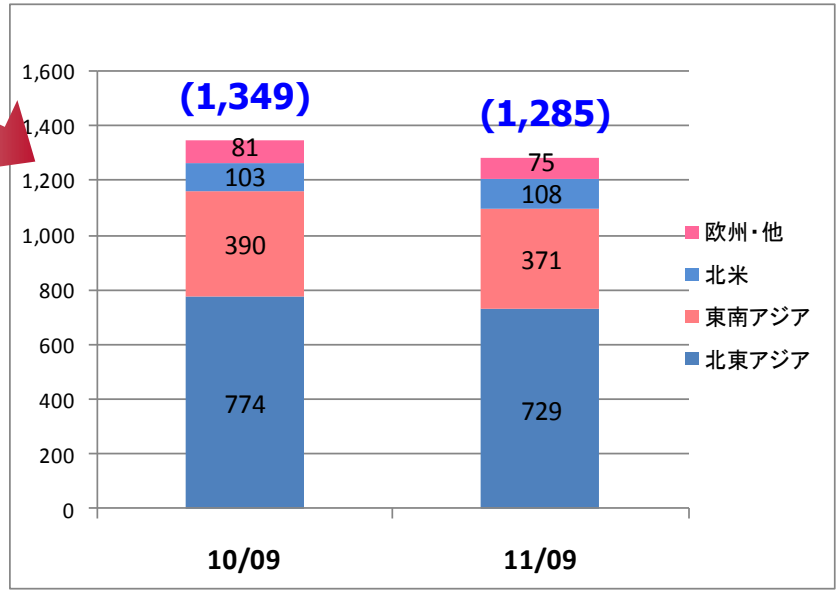
1-6月

4-9月



海外売上の地域別内訳（前年同期比）

（単位：億円）



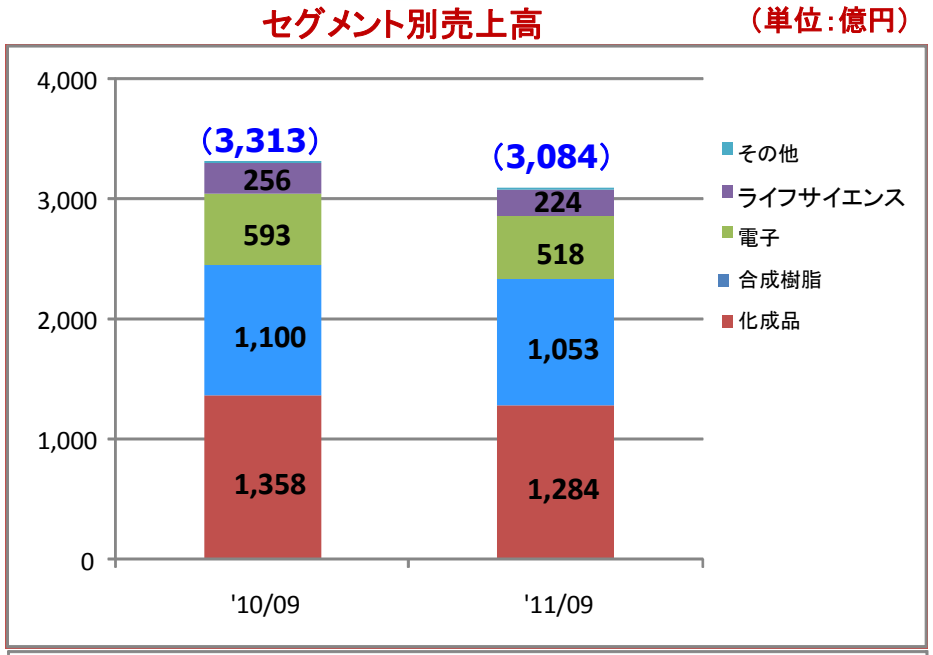
― 海外売上比率は上昇（41%→42%）―

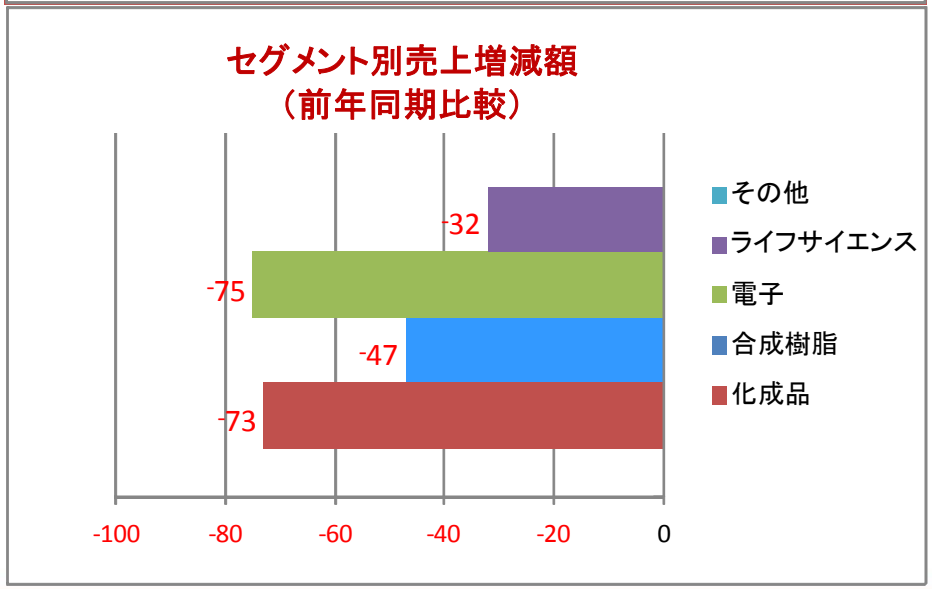
前年同期比での円高の影響（約10%円高）を除くと
2011年9月期の実質的な海外売上比率は更に2%程度上昇

（参考）ﾄﾞﾙ円平均ﾚｰﾄ 2009-2011

	2009				2010				2011			
	1-3	1-6	1-9	1-12	1-3	1-6	1-9	1-12	1-3	1-6	1-9	1-12（見通し）
米ﾄﾞﾙ平均ﾚｰﾄ	95.20	95.98	94.92	93.72	90.75	91.02	89.02	87.32	82.33	81.78	80.21	79.30

セグメント別 売上高





セグメント別の売上概況（前年同期比較）

化成品　1,284億円（▲73億円　5.4%減 ）

■塗料関連は増加、
自動車向けｳﾚﾀﾝ原料、樹脂原料･添加剤関連は減少

■顔料･添加剤関連、情報印刷関連材は横ばい、
ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ関連向け機能色素、繊維加工業界向け染料･繊維加工剤は減少

■界面活性剤･加工油剤原料関連は増加、
精密研磨関連部材･有機合成原料･ﾌｯ素ｹﾐｶﾙ等は減少

合成樹脂　1,053億円（▲47億円　4.3%減）

■OA･家電関連売上は中国向け輸出を中心に減少

■自動車関連商材は減少

■機能性ﾌｨﾙﾑ･ｼｰﾄ、樹脂成型品関連は主力商品を中心に減少

■北東ｱｼﾞｱは減少、東南ｱｼﾞｱ･北米は微減

電子　518億円（▲75億円　12.7%減）

■国内の液晶関連部材の加工ビジネスからの撤退

■液晶用ﾌｨﾙﾑ関連･ﾀｯﾁﾊﾟﾈﾙ用部材は増加

■半導体および液晶用ﾊﾟﾈﾙ製造用薬液は減少

■変性ｴﾎﾟｷｼ樹脂関連は、重電関連･携帯電話向けなどに増加

ﾗｲﾌｻｲｴﾝｽ　224億円（▲32億円　12.6%減）

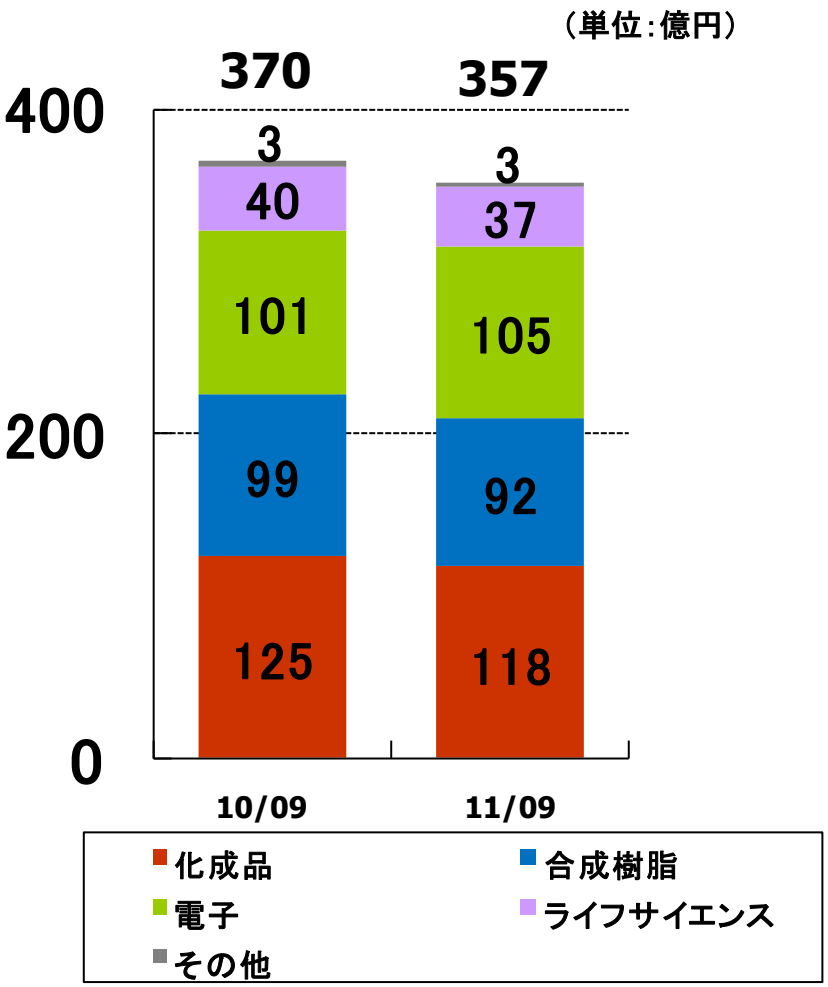
■医薬品原料･中間体関連、生活資材や農薬関連は減少

■酵素及び発酵生産物関連は減少

■ﾋﾞｭｰﾃｨｹｱ製品事業は、新化粧品の売上が堅調に推移したものの、健康食品の販売減により減少

セグメント別　売上総利益

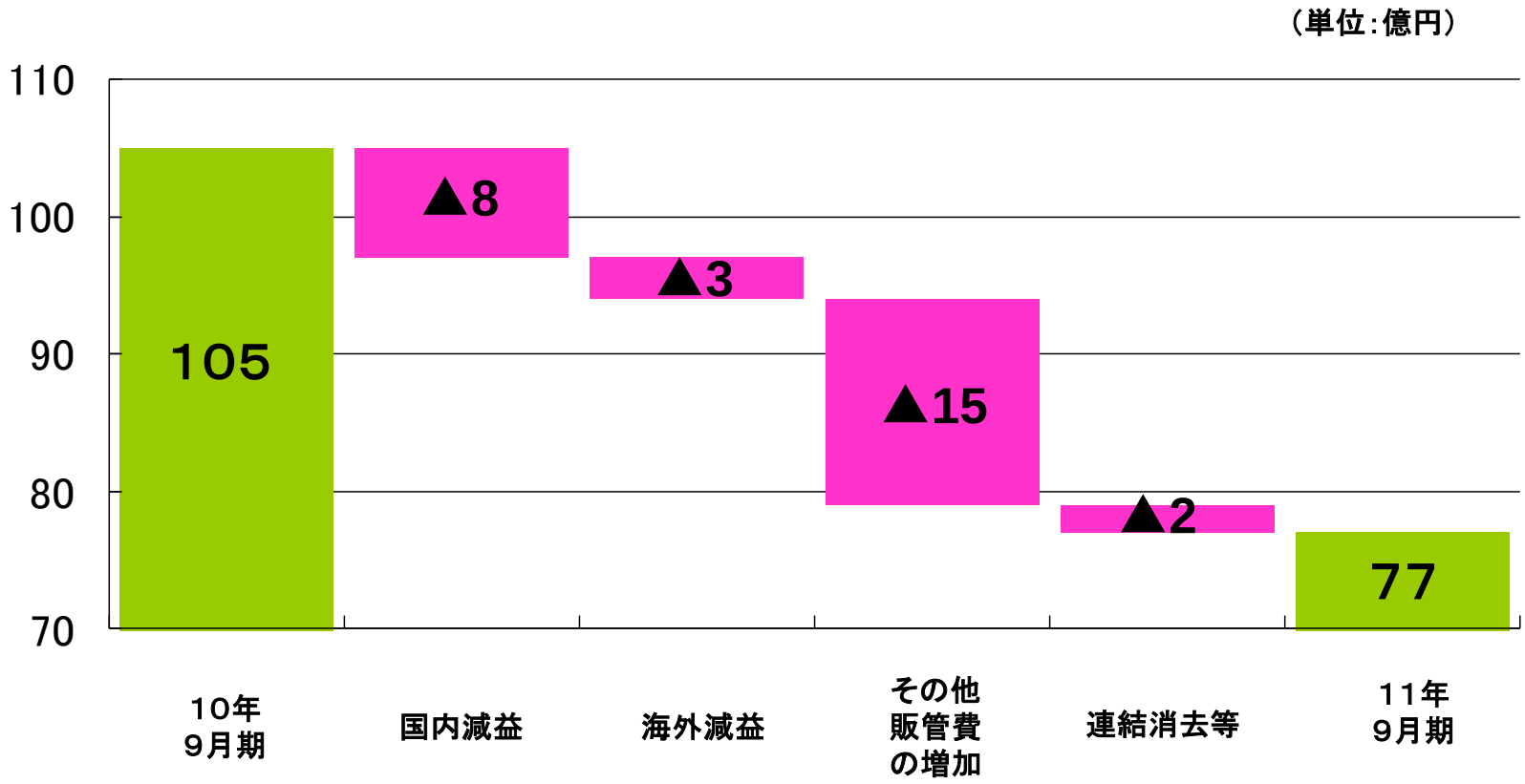
売上総利益　：　357億円　▲12億円　3.3%減



セグメント別 売上総利益（前年同期比）

化成品	118億円	▲7億円	5.6%減
合成樹脂	92億円	▲6億円	6.4%減
電子	105億円	＋4億円	4.5%増
ライフサイエンス	37億円	▲2億円	6.6%減

営業利益 減益要因

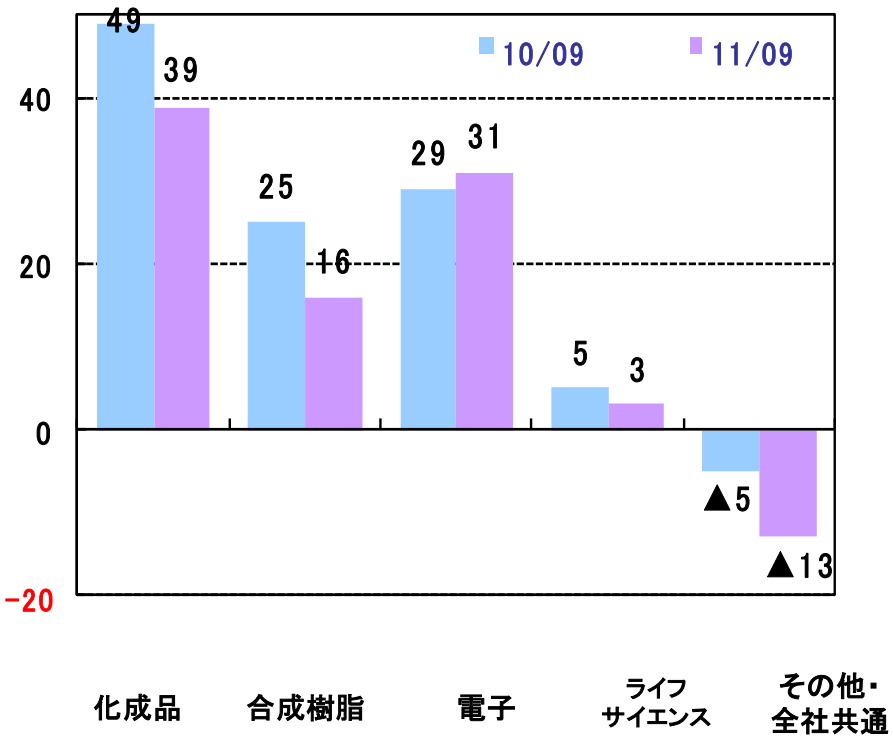

（単位：億円）
110
100
90
80
70
105
▲8
▲3
▲15
▲2
77
10年
9月期
国内減益
海外減益
その他
販管費
の増加
連結消去等
11年
9月期

セグメント別　営　業　利　益

営業利益　：　77億円　▲27億円　26.0%減

＜セグメント別　営業利益＞

（単位：億円）



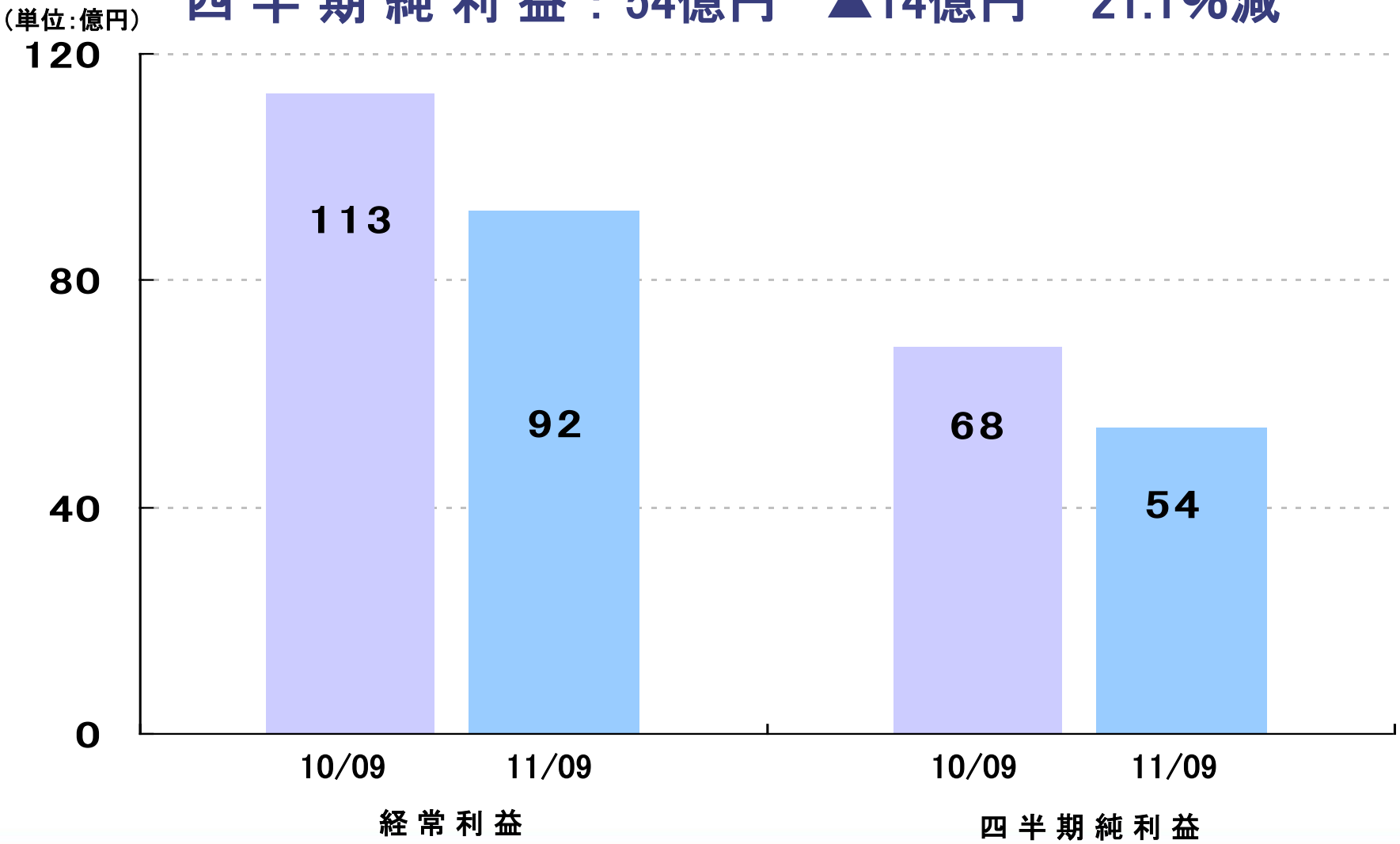
セグメント別 営業利益(前年同期比)

化成品	39億円	▲10億円	20.4%減
合成樹脂	16億円	▲ 9億円	35.5%減
電子	31億円	＋ 1億円	6.4%増
ライフサイエンス	3億円	▲ 2億円	40.6%減

経常利益・四半期純利益

経　常　利　益　：92億円　▲21億円　19.1%減

四半期純利益：54億円　▲14億円　21.1%減



NAGASE

主な貸借対照表の増減

単体および海外において棚卸資産が増加

（単位：億円）

《資産》	１１/０３	１１/０９	増減	《負債及び純資産》	１１/０３	１１/０９	増減
現金及び預金	４７２	４４５	▲２６	支払手形及び買掛金	１,０１６	１,００５	▲１１
受取手形及び売掛金	１，８６１	１，８２４	▲３７	短期借入金	１６１	２３９	＋７７
棚卸資産	３６７	４５０	＋８３	その他流動負債	２０６	１９０	▲１６
その他流動資産	７２	７７	＋４	長期借入金	１０５	５４	▲５０
有形固定資産	３９９	４２２	＋２３	退職給付引当金	７２	８０	＋７
無形固定資産	３６	３６	▲０	その他固定負債	９６	８４	▲１１
投資有価証券	５０７	４６６	▲４０	株主資本	１，９５９	１，９９５	＋３６
その他固定資産	３７	３９	＋２	（うち自己株式）	（▲５４）	（▲５４）	（▲0）
				有価証券評価差額金	１３１	１１１	▲２０
				為替換算調整勘定	▲７６	▲７８	▲２
				新株予約権	２	１	▲１
				少数株主持分	７５	７７	＋１
				純資産合計	２，０９３	２，１０７	＋１４
				（自己資本比率）	（53.7%）	（53.9%）	（+0.2%）
資産合計	３，７５３	３，７６３	＋９	負債及び純資産合計	３，７５３	３，７６３	＋９

キャッシュ・フローの状況

棚卸資産の増加による運転資金の増加があったものの、税金等調整前四半期純利益 94億円の計上等により営業キャッシュ・フローは17億円の収入。

有形/無形固定資産の取得等に伴い、投資活動によるキャッシュ・フローは49億円の支出。

（単位：億円）

	１１/０９	主な内訳	１０/０９
営業活動による キャッシュ・フロー	＋１７	税前利益　９４億円 減価償却費　３３億円 運転資金　▲５４億円 法人税等　▲４４億円　等	＋２４
投資活動による キャッシュ・フロー	▲４９	有形固定資産の取得　▲３４億円　等	▲５８
財務活動による キャッシュ・フロー	▲０	短期借入金の増加　２６億円 長期借入金の減少　▲６億円　等	＋２５
現金及び 現金同等物の増減	▲３２		▲１５
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増減	＋１		＋２
現金及び 現金同等物の期末残高	４４０	貸借対照表上の現預金残高４４５億円 ー内３ヵ月超の定期預金残高５億円＝４４０億円	４１４

主な連結子会社の業績

（単位：百万円）

	社　名	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	純利益	前年同期比
単体	長瀬産業	217,111	94%	1,770	56%	6,154	134%
製造会社	ナガセケムテックス	14,159	90%	1,590	72%	903	69%
	東拓工業	3,777	108%	136	113%	105	86%
	※製造会社計※	36,438	104%	2,481	88%	1,336	77%
国内販売会社	ナガセプラスチックス	15,346	115%	191	189%	110	126%
	長瀬カラーケミカル	7,011	92%	46	37%	27	28%
	ナガセケミカル	6,782	98%	114	102%	62	98%
	※国内販売会社計※	47,541	103%	733	111%	440	84%
海外販売会社	長瀬香港有限公司	21,515	81%	328	43%	270	42%
	ナガセタイランド	12,583	103%	516	92%	374	94%
	上海長瀬貿易有限公司	11,817	123%	161	75%	119	80%
	※海外販売会社計※	113,116	97%	2,590	73%	2,157	80%

※注）各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。

2012年3月期業績見通し

NAGASE

2012年3月期 業績見通し

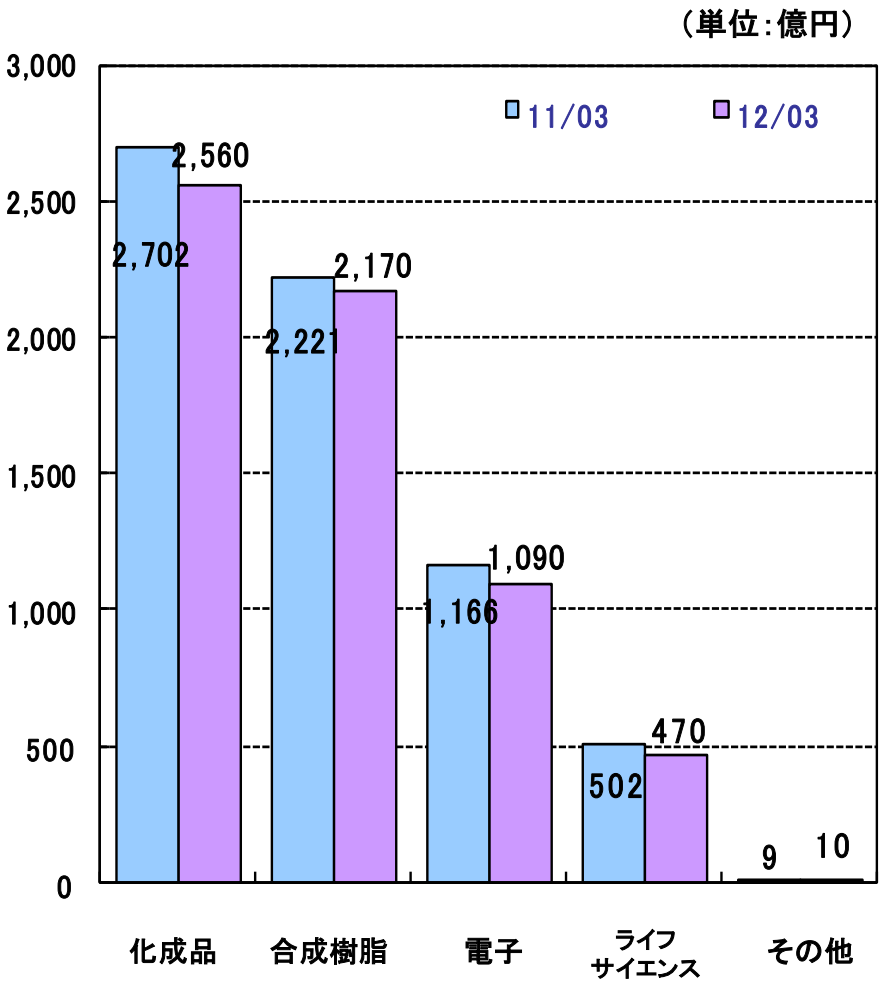
（単位：億円）

	12／03 当初見通し	上期実績	下期推実	12／03 見通し	11／03 実績	前期比
売上高	6，600	3，084	3，216	6，300	6，602	96%
売上総利益	735	357	362	719	730	98%
営業利益	180	77	78	155	187	83%
経常利益	190	92	78	170	206	82%
当期純利益	120	54	46	100	128	78%
1株当たり年間配当金	24円	12円	12円	24円	22円	－
想定為替レート(1US$)	81円			79．3円	－	－

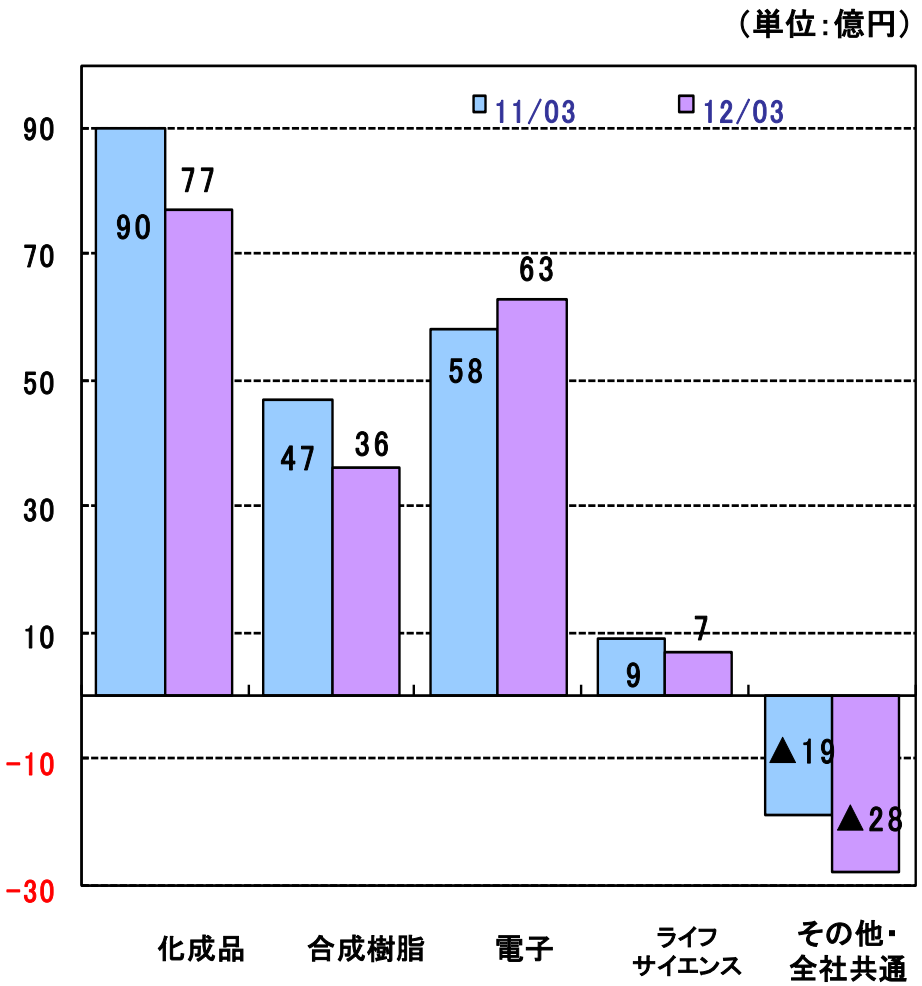
※2011年10月-12月は、1US$＝76.66円で推移すると仮定
※林原3社の業績は加味しておりません。

2012年3月期　セグメント別見通し

＜セグメント別　売上見通し＞



＜セグメント別　営業利益見通し＞



中期経営計画「*“CHANGE” 11*」進捗

「“CHANGE” 11」の将来の目指す姿

経営理念

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、
社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、
社員の福祉の向上と社会への貢献に寄与する

将来の目指す姿

（顧客に対して）
市場構造・環境の変化を先取りし、
独自のソリューションを提案すること
で顧客とともに発展する企業

（社員に対して）
事業を通じて、夢と理想を
実現する場を提供する企業

（株主・投資家に対して）
技術を基盤として、強みを活かした
事業を中心に成長し価値を
高め続ける企業

（社会に対して）
社会に貢献し、地球環境に
寄与する企業

「“CHANGE” 11」の基本戦略

外部環境の大きな変化

・企業倫理
・環境・資源問題

基本戦略

事業と運営の質の向上

グループ内の変化

・製造会社売上増
・海外売上比率高
・海外就労人員増

変わらなければいけないという意識

経営理念

（誠実に正道を歩む）

「“CHANGE” 11」の重点施策

1	事業の選択と集中
2	環境・エネルギー関連技術の取り組み
3	研究・開発・製造機能の強化
4	グローバル化の推進
5	リスクマネジメントの強化
6	ダイバーシティの推進とワークライフバランスの支援

「“CHANGE” 11」 の 進 捗

1 事業の選択と集中

- 更生会社株式会社林原等の再建支援に関するスポンサー契約の締結

2 環境・エネルギー関連技術の取り組み

- レアメタル回収バイオプロセスの実用化に向けた取り組み
- ㈱キャプテックス新工場（岡崎工場）着工開始

3 研究・開発・製造機能の強化

- インドにコーティングラボ設置
- ナガセケムテックスの新生産棟着工

4 グローバル化の推進

- ナガセシンガポールがオーストラリアに支店設立

5 リスクマネジメントの強化

- 上海市に「長瀬企業管理（上海）有限公司」を設立

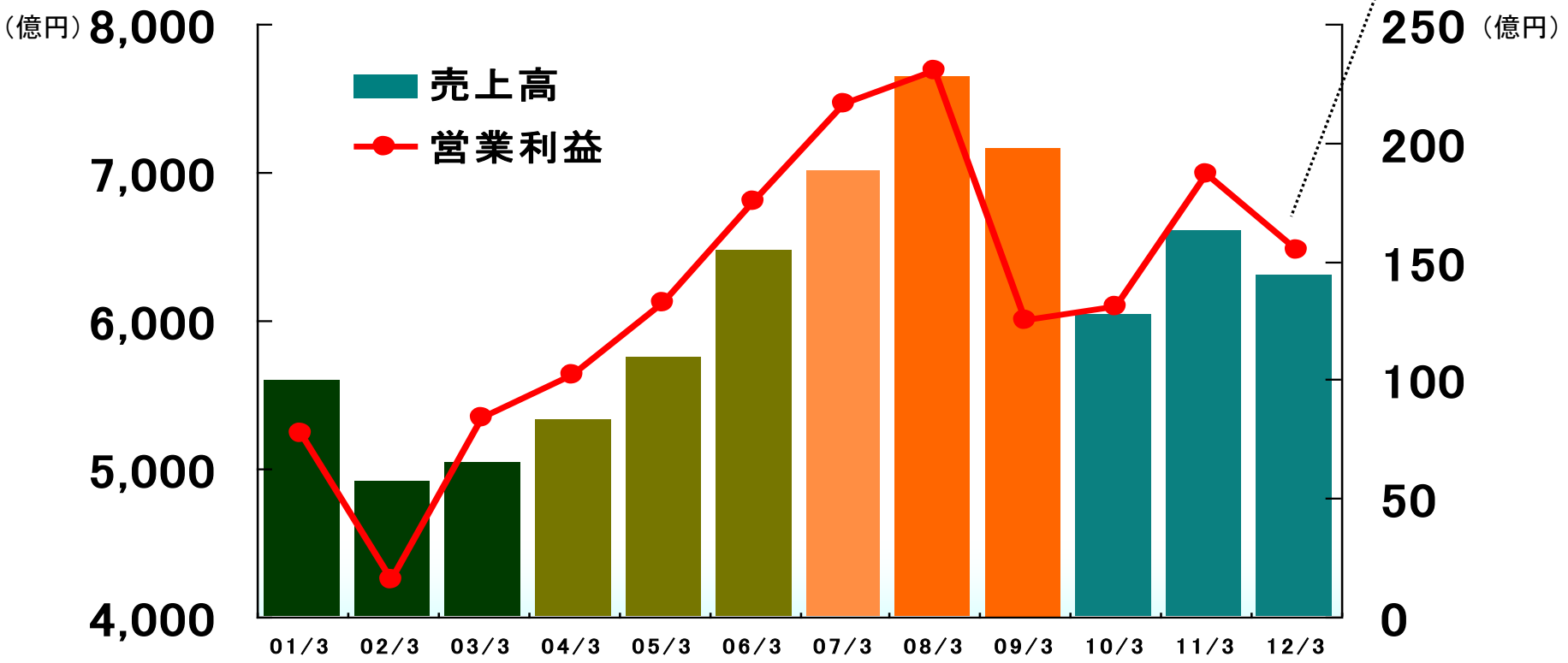
6 ダイバーシティの推進とワークライフバランスの支援

- ダイバーシティ推進委員会を中心に各事業部での現場レベルでの継続実施

「“CHANGE” 11」の数値目標（1）

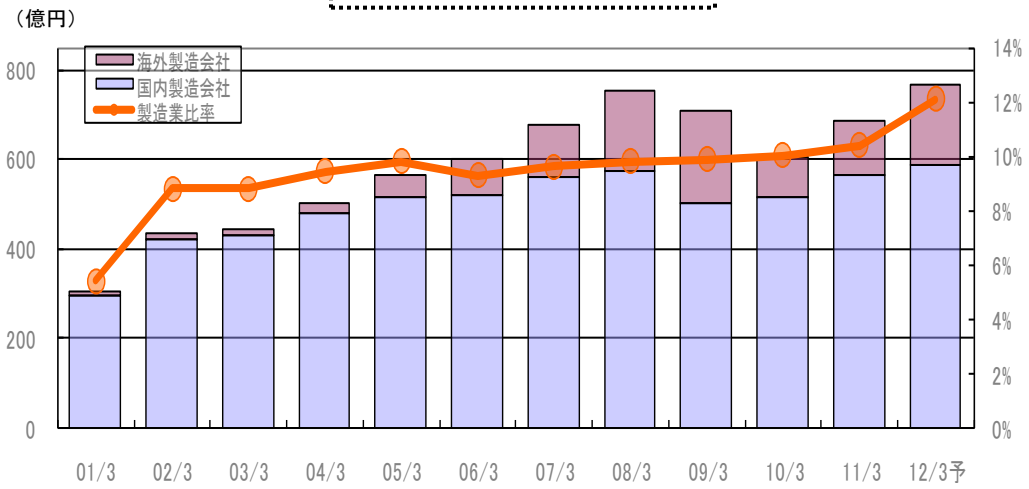
変革	推進	拡大･強化	事業と運営の質の向上
WIT2000	WIT21	WIT2008	“CHANGE” 11
投資額 ←202億円→	←237億円→	←277億円→	←300億円→

当初目標
売上　7,200億円
営業利益 150億円

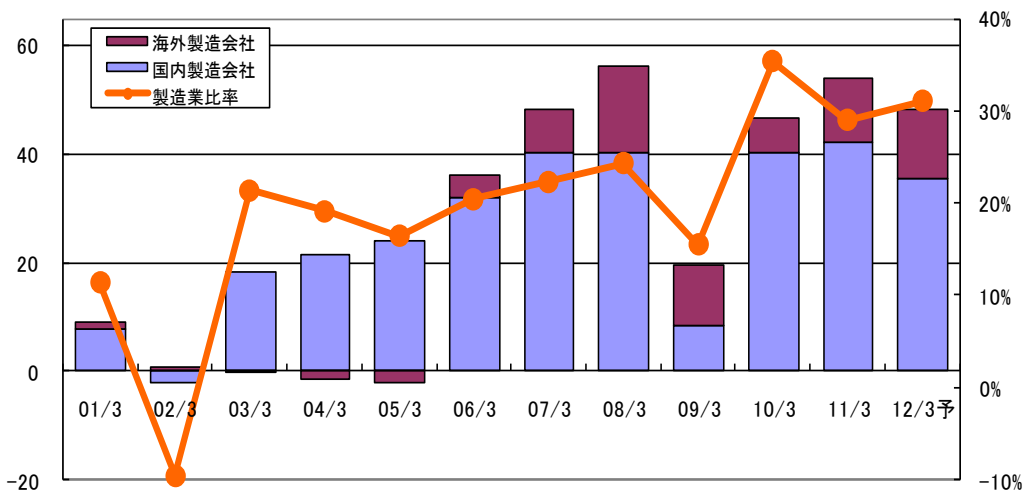


「“CHANGE” 11」の 数 値 目 標（2）

製造業比率（売上高）



製造業比率（営業利益）



投資（3年間）

当初予定
300億円

環境・エネルギーを中心とした新規投資
200億円

既存設備更新
100億円

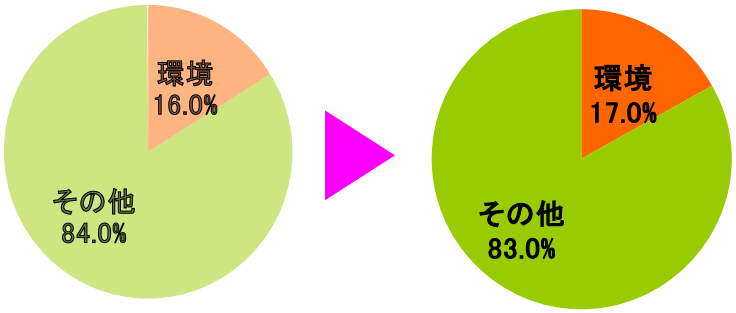
見通し
1,012億円

12/3見通し
108億円
+700億円

11/3実績
97億円

10/3実績
107億円

環境・エネルギー関連売上高比率



10/3期　　12/3期（予）

NAGASE

バイオ事業の成長戦略について
～更生会社 株式会社林原等のスポンサー契約の締結を受けて～

ファインケミカル事業部長

菅 野　　満

ナガセの事業ポートフォリオの課題

●ナガセグループ中期経営計画「*“CHANGE”11*」
重点分野（自動車　エレクトロニクス　ライフサイエンス）

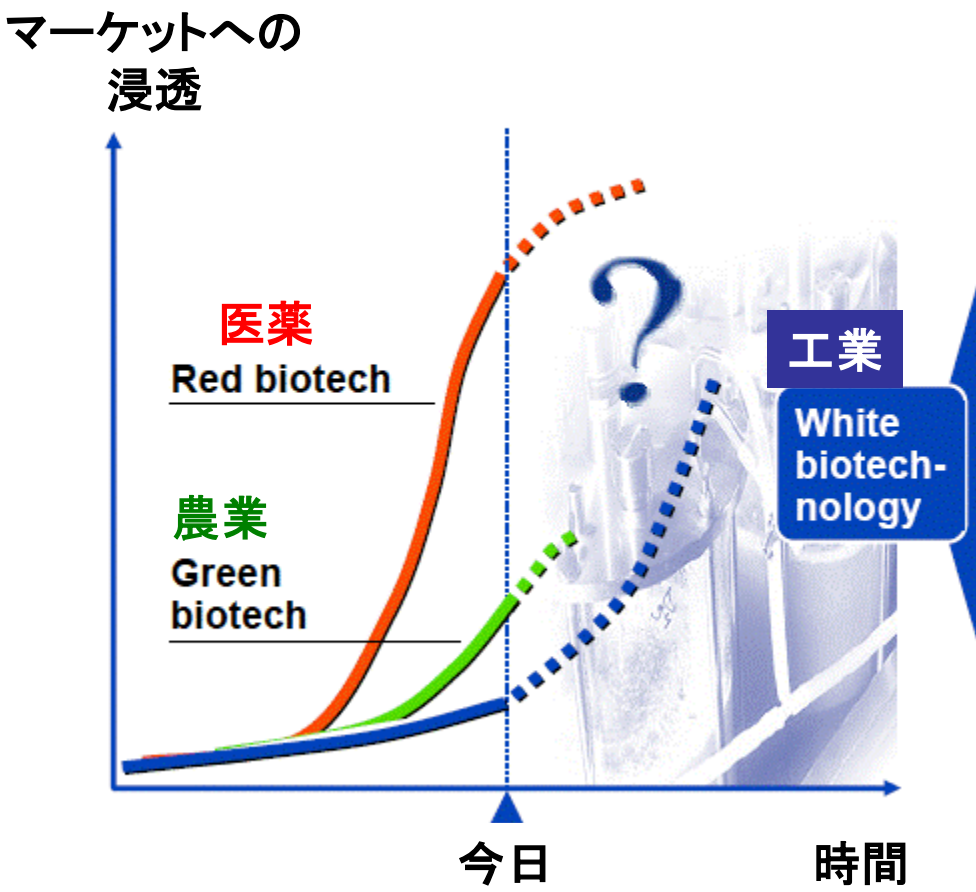
●ライフサイエンス事業の現状(2011.3期)
売上構成比7.6%（連結ベース比）
営業利益構成比4.6%（同）

＜ライフサイエンス事業＞
- ■ バイオ（酵素）事業
- ■ 医薬品・医薬中間体・農薬事業
- ■ 化粧品・健康食品事業

●長期的な観点から、事業強化策として、化石原料依存型のビジネスからバイオ由来の技術・製品のビジネスにシフトしていくことが不可欠。

バイオ分野を今後の基盤事業と位置付け重点育成

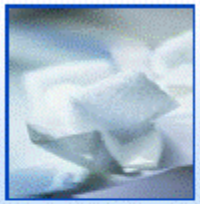
バイオビジネス



今日の産業への適用

バイオフィードストック

オイルやガスをバイオマスで置換え



バイオプロセス

化学合成法を発酵法や生体触媒法で置換え

バイオプロダクツ

新規機能性プロダクツ（バイオポリマー、酵素、健康食品素材）

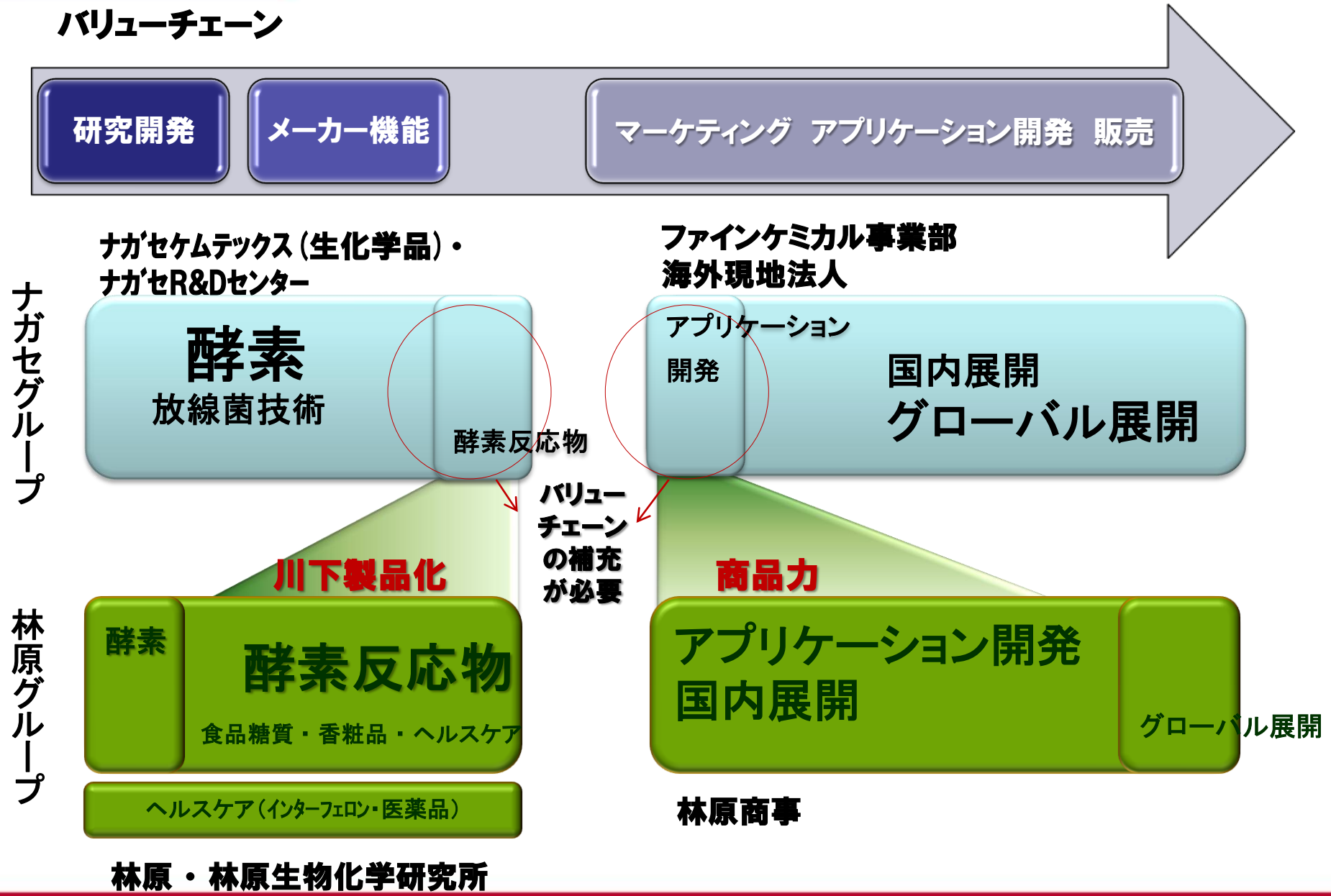
出典：White BioTechnology, Mckinsey & Company

ナガセの酵素事業の変遷

ナガセの酵素事業における製品開発の70年史
～　新しい歴史の始まり

年代	1939 ~1950	1951 ~1960	1961 ~1970	1971 ~1980	1981 ~1990	1990 ~2000	2001 ~2010
製品	ｱﾐﾗｰｾﾞ	ｱﾐﾗｰｾﾞ （液体培養） ｱﾙｶﾘﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞ		ｸﾞﾙｺｰｽ ｲｿﾒﾗｰｾﾞ 耐熱α ｱﾐﾗｰｾﾞ ｶﾀﾗｰｾﾞ	小麦βｱﾐﾗｰｾﾞ→大豆へ ﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞ細粒 ｳﾚｱｰｾﾞ ASO	藻由来のDHA	ﾌﾟﾛﾄﾍﾟｸﾁﾅｰｾﾞ ﾗｸﾀｰｾﾞ ｷﾁﾅｰｾﾞ 酵素生産物
技術	ｸﾞﾙｺｰｽ生産工程	深層液体発酵	固定化培養技術のｲﾝﾄﾞ輸出		ﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞ生産技術のUSA輸出		放線菌の取組み

林原3社とナガセのバイオ事業の特徴



林原3社に係るスポンサー契約の概要

スポンサー契約の概要

拠出金額

700億円を拠出し、林原3社の再建支援を行う。

継承する事業・資産

・食品素材、香粧品素材、医薬品素材及び機能性色素事業の研究開発・製造販売活動

・林原3社の事業用資産

・メセナ事業（類人猿研究・古生物研究・美術館）

林原3社の合併

3社合併後、100%減資のうえ、新株発行の全てを引受け、100%子会社化。

林原3社の概要（1）

	（株）林 原	（株）林原商事	（株）林原生物化学研究所
〈本社住所〉	岡山市北区下石井1-2-3	岡山市北区下石井1-2-3	岡山市北区下石井1-2-3
〈事業内容〉	食品・医薬品・化粧品原料製造	医薬・食品用マルトース、トレハロース、プルラン等、澱粉糖化製品卸	医薬品原料・化粧品原料・化学品（機能性色素）製造販売、研究試薬・一般用医薬品・化粧品製造販売
〈設立日〉	1932年（昭和7年）7月	1962年（昭和37年）4月	1970年（昭和45年）9月
〈資本金〉	1億円	1千万円	5千万円
〈従業員数〉	288人	96人	235人
〈支店〉		東京支店/大阪支店	
〈営業所〉		札幌/仙台/新潟/宇都宮/横浜/名古屋/金沢/神戸/岡山/福岡/Lプラザ/Cプラザ	
〈工場〉	岡山第一工場/岡山第二工場/岡山機能糖質工場		吉備製薬工場/藤田工場/藤田製剤工場
〈研究所〉			研究センター（糖質研究部門/医薬研究部門/基礎細胞研究部門/感光色素研究部門/東京研究室）/類人猿研究センター/古生物学研究センター
〈その他〉			特許センター/開発センター/粧薬・化学品センター

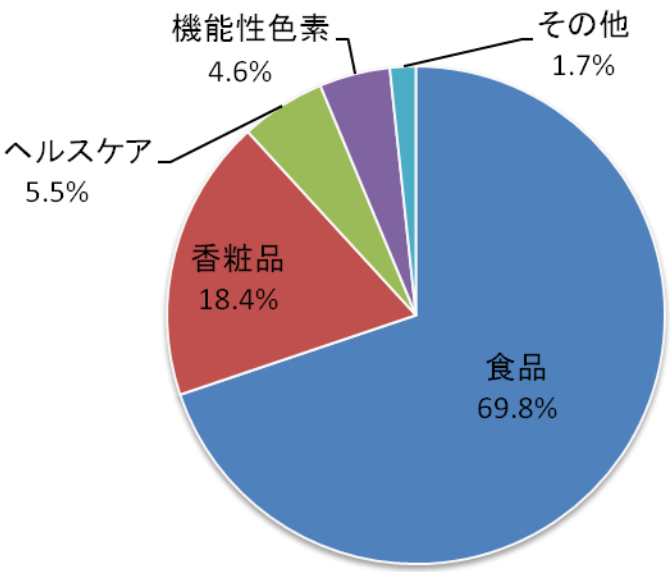
林原3社の概要(2)

売上高:　310億円(うち、ライフサイエンス分野約290億円)
(2010年10月期、林原、林原商事、林原生物化学研究所合算ﾍﾞｰｽ)

従業員数:　約620人

主要製品:　食品素材:
トレハロース、
マルトース(甘味料)、
その他機能性糖類
化粧品素材:
安定化ビタミンC(AA2G)

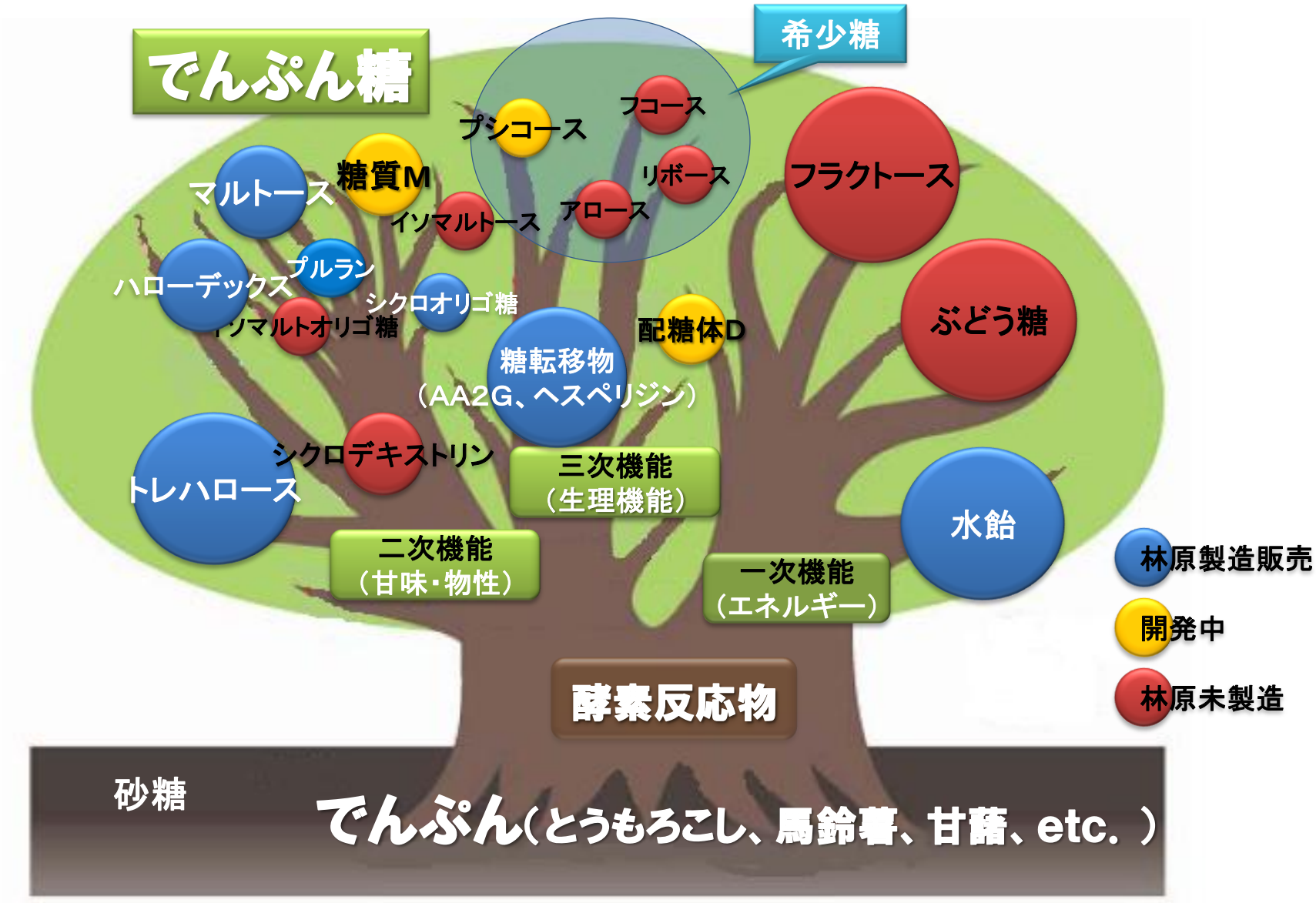
売上構成比



主要工場:　岡山第一・第二・機能性糖質工場

当社との取引:　当社売上(酵素等)約1億円/年
当社仕入(トレハロース等)約2億円/年

林原3社の主力製品群（酵素反応物）について



林原3社主力製品について（トレハロース）

【特徴・強み】

・自然界に広く存在する天然の糖質
・さわやかな甘み（砂糖の約45%）
・吸湿性防止、澱粉老化防止、冷凍耐性、乾燥耐性など多様な機能を持ち「夢の糖」と称されている。

	トレハロース	他社品A	他社品B
低甘味な糖	○	○	○
結晶の粉末	○	×	×
耐酸・耐熱性	○	○	○
非着色性	○	△	△～×
安全性	○	○	○

【主な用途】

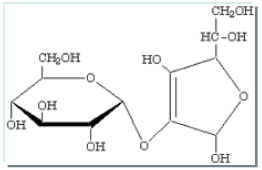
和菓子、洋菓子・デザート、製菓、飲料、パン、
その他/変色抑制、たんぱく質変性抑制、冷凍耐性、
澱粉老化抑制、野菜の鮮度維持、吸湿抑制/食品添加物
販売額の約90%が国内向け

【他社や他素材との競合状況】

林原グループは微生物の中に新規なトレハロース生成酵素を発見し、
澱粉から直接トレハロースを製造する技術を開発。
これにより従来の約100分の1の低価格で安定的にトレハロースを製造することに成功し、
食品用途での使用が一気に拡大した。
商業レベルでは世界唯一のトレハロース製造メーカーである。

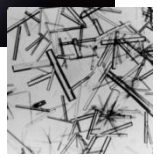
林原3社主力製品について（AA2G）

AA2G：（ L-アスコルビン酸2-グルコシド：安定化ビタミンC）



【特徴・強み】

微生物由来の糖転移酵素を用い、澱粉由来のグルコースをビタミンCに転移させることにより製造。
世界ではじめて工業的な製造を可能にした。
L-アスコルビン酸（ビタミンC）は、皮膚の異常色素沈着を抑制することが知られており、
AA2Gは従来のビタミンCと比べて安定性が極めて高く、生体内ではビタミンC本来の生理活性を発揮する
という特徴を備えていることから、美白剤等の化粧品として応用されている。
国内では、1994年に医薬部外品の有効成分としての認可を受けている。



【主な用途】

美白スキンケア商品として国内外の大手化粧品メーカーに採用。
販売額の約75%が国内向け。
国内の化粧品市場のうち、スキンケア市場は約6,000億円強、うち美白スキンケアの市場規模は2,100億円強。

【他社や他素材との競合状況】

一般ビタミンC（含誘導体）に比べたAA2Gの優位性：
- 持続性が長い。
- 処方性が安易（化粧品製造工程が少なくて済む。）
- 溶解性が高い（塗布時の肌へのダメージが低い。）
- 安全性が高い（肌とのpHに近い。）

林原3社の売上、利益計画

（単位：億円）

	2011予想	2015計画	2011比	2011差
売上	260	330	125%	70
売上利益	120	155	129%	35
一般管理費	67	85	127%	18
営業利益	53	70	132%	17
EBITDA	70	85	121%	15

メセナ事業について

メセナ事業（類人猿研究・古生物研究・美術館）については、将来、より相応しい第三者に承継することも想定しておりますが、計画値には、メセナ事業の運営費を含めております。

注）2011年度予想値は、更生計画の策定の際に、事業管財人が推定した数値であり、仕入商品ﾋﾞｼﾞﾈｽからの撤退を前提としております。
2015年度計画値は、当社が林原3社の再建支援に関するスポンサー就任への検討の基礎として算出した数値であります。
これらは、今後の様々なリスク及び不確実性により、実際の結果と大きく異なる可能性があります。

今後の展開

営業強化=海外戦略の見直し

海外拠点の再検討（販売拠点、製造拠点）

アプリケーションラボ設置の検討

林原の技術者の派遣＋ナガセの営業人員

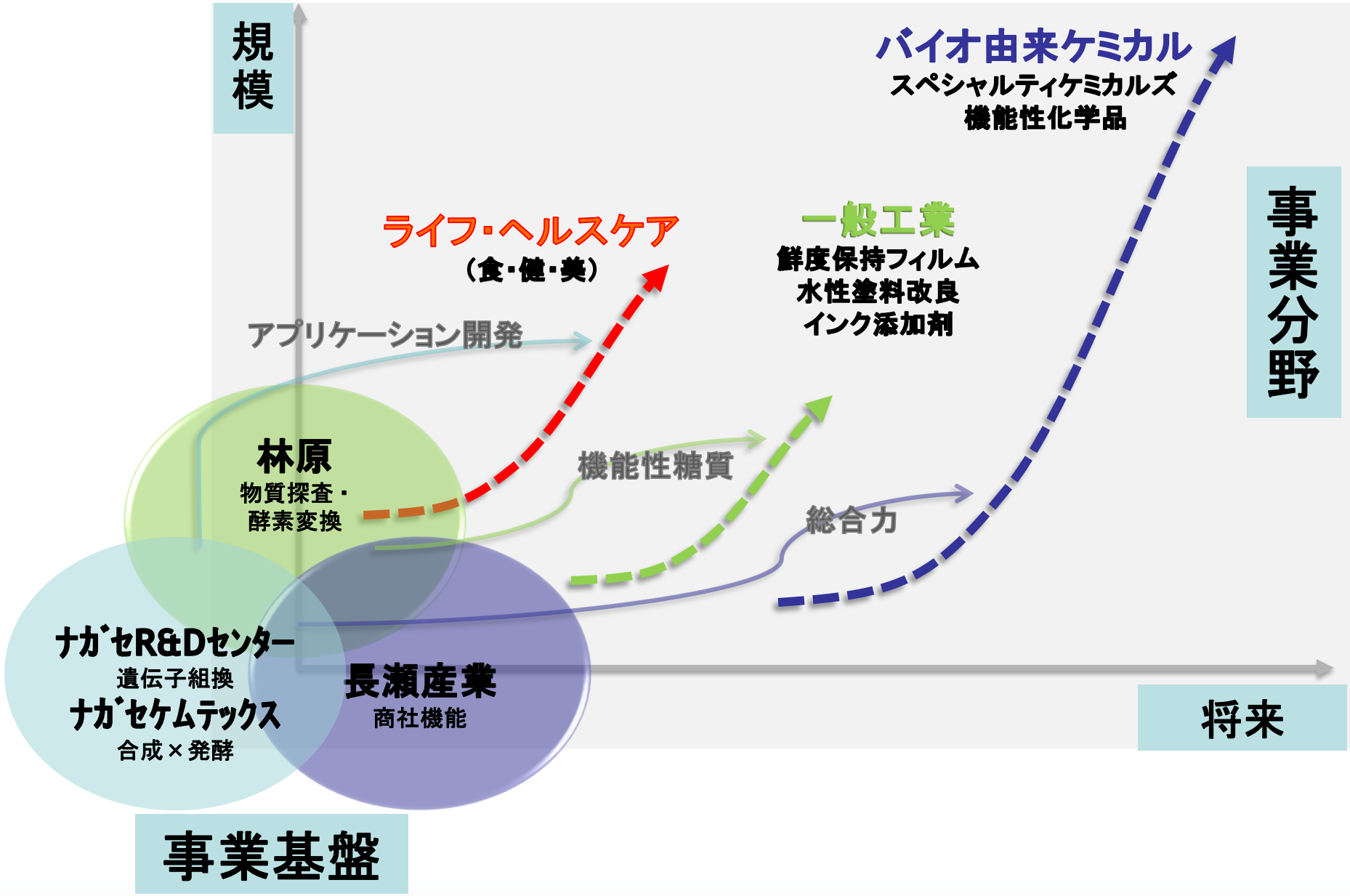
研究・開発・生産体制強化

ナガセR&Dセンター、ﾅｶﾞｾｹﾑﾃｯｸｽの研究・生産部門との融合

管理機能強化

会計・コンプライアンス機能の充実

バイオ事業拡大の方向性



今後の想定スケジュール

2011年11月18日	・更生計画案を東京地方裁判所に提出（済）
12月末日	・更生計画の認可決定（予想）
2012年 1月初旬	・更生計画認可決定の公告（2週間）
1月下旬	・更生計画の認可確定（予想）
2月初旬	・林原3社の合併
	・700億円を拠出 （新株発行引受150億円　融資550億円）
	・当社100%子会社化により連結子会社化

注）現時点での見通しであり、今後の様々なリスク及び不確実性により、実際の結果と大きく異なる可能性があります。

当社連結業績に与える影響

参考値

売上
6,300億円

売上
6,560億円
（104%）

営業利益
155億円

営業利益
180億円
（116%）

※当社2011年度連結業績予想に林原3社の2011年度推定実績（通年ベース・のれん償却後）を加えた数値

財務インパクト

- のれん償却期間：20年
- 投資回収期間：10年以内
- EBITDA： 70億円以上で推移
- 繰越欠損金の活用による税負担の減少

注）現時点での見通しであり、今後の様々なリスク及び不確実性により、実際の結果と大きく異なる可能性があります。

NAGASE

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

http://www.nagase.co.jp

当プレゼンテーション資料には、2011年11月21日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。